

県外避難者支援『暮らしサポート隊』 活動紹介

暮らしサポート隊 代表 石東 直子
副代表 石塚 裕子*
副代表 室崎 千重

1. 活動主体

団体名 : 東日本大震災 暮らしサポート隊 http://www.geocities.jp/kurasapotai/0_home.html
発起人 : 石東直子 (いしとう なおこ) 氏 石東・都市環境研究室主宰
黒田裕子 (くろだ ゆうこ) 氏 阪神・障害者支援ネットワーク代表
メンバー : 同じ志をもつ老若男女 約 50 名登録 (コアスタッフは約 20 名)

2. 主な活動

- (1) 県外避難者の交流の場『みちのくだんわ室』の開催 (原則毎月 1 回)
- (2) 仮設住宅コミュニティ支援活動 (宮城県亘理町、福島県いわき市他)



3. 主な活動経緯

○2012 年 4 月 暮らしサポート隊発足

わたしたち「暮らしサポート隊」は、18年前の阪神大震災後の仮設住宅や復興公営住宅を訪問して入居された方々の安心、元気アップのためにいろんな活動をしてきたメンバーを中心とした集まりです。

18年前は全国の皆さんに応援していただき、元気になりました。今、わたしたちは東北からお越しのみなさんに元気をとりもどしていただくために応援をいたします。

- 2012 年 6 月 11 日 第 1 回みちのくだんわ室開催 (以降、毎月 1 回開催)
- 2012 年 7 月 11 日 第 2 回みちのくだんわ 開催
みちのくだんわ室たより第 1 号発行 (以降、原則月 1 回発行)
- 2013 年 6 月 みちのくだんわ室 1 年の記録 発行

4. 「みちのくだんわ室」の活動理念

- ・快適でゆったりした癒しの雰囲気を持つ空間を提供する— 公民館や会議室風なのは避けたい
- ・大人が幼児から解放されて、ゆっくりおしゃべりができる— 子どもは預かる。子どもスタッフの充実
- ・美味しいお菓子とお茶 (時にはランチ) を提供し、原則としてイベントはしない
- ・大人は 500 円程度の参加費をいただく。子どもは無料。
- ・スタッフは目配り、気配りに徹し、相談事に応じやすい雰囲気です
— 黒子に徹し、避難者さんたちの談話の中に入らない

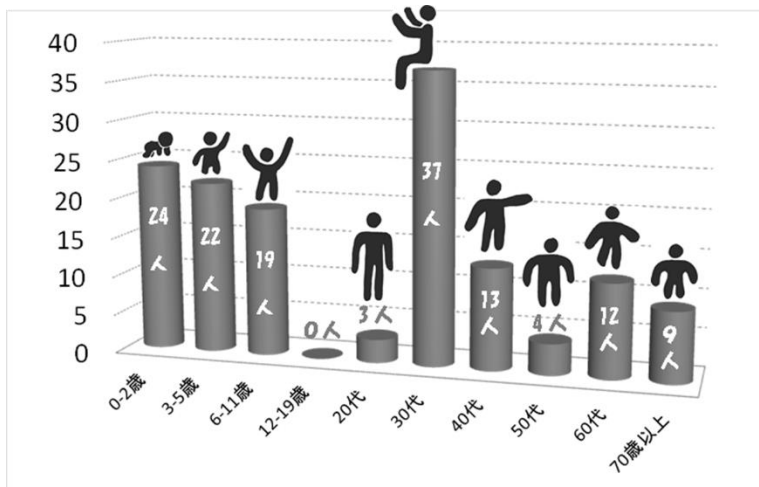
5. みちのくだんわ室開催記録

2013.10.12 現在

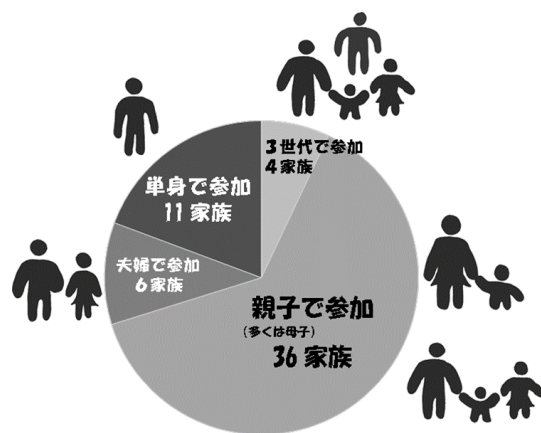
回数	開催日	会場	参加人数		開催内容
			参加者	スタッフ	
2011年					
1	6月4日	しあわせの村	38(16)	16	歓迎ピクニック
2	7月11日	三宮ターミナルホテル	49(20)	15	神戸のお菓子とパン、ホテルのコーヒーで歓談
3	8月7日	神戸花鳥園	29(9)	13	花々の中、鳥と遊ぶ
4	9月10日	淡路景観園芸学校	45(18)	10	明石海峡大橋を渡って淡路島バスツアー
5	10月16日	UCC カフェ コンフォート	39(15)	17	六甲山と瀬戸の海を眺望・24階の展望喫茶で
中止	11月19日	しあわせの村 /大雨で中止			当日中止
6	12月10日	磯上邸パーティールーム	53(28)	13	豪華なパーティールームでクリスマスコンサート
2012年					
7	1月21日	赤坂飯店 Tio 舞子	29(9)	17	明石海峡大橋のたもとで 中国茶と点心
8	2月18日	元町・パレス神戸ホテル	36(13)	16	和室でゆったり歓談
9	3月17日	淡路島・奇跡の星の植物館	41(17)	12	淡路島バスツアー 植物園でのアトラクションも
10	4月14日	しあわせの村バーベキュー	49(20)	16	神戸中央卸売市場の新鮮食材提供の大バーベキュー
11	5月12日	明石城址公園	27(8)	16	明石名物「たこ焼き」と散策
12	6月24日	コープこうべ生活文化センター	60(24)	19	1周年記念パーティー ミニコンサートと大道芸
13	7月28日	岡本一シェ・ドンク	14(5)	8	音楽療法士の音に包まれて
14	9月2日	舞子海上プロムナード	38(16)	11	海上散策と海上レストランでの歓談
15	10月14日	明石城址公園—刀削麺	54(24)	18	福龍門さんの刀削麺の実演でいただく
16	11月23日	兵庫県立美術館	15(3)	9	文化の秋は芸術鑑賞とティタイム
17	12月16日	ホテルクラウンパレス神戸	63(30)	16	クリスマスパーティー・ マリンバ演奏と女性アンサンブル
2013年					
18	1月13日	赤坂飯店 Tio 舞子	42(16)	6	明石海峡大橋のたもとで 中国茶と点心
19	2月18日	神戸中央卸売市場料理教室	30(12)	15	参加者の鱈の解体ショー 鱈のしゃぶご馳走づくめ
20	3月17日	有馬富士公園と県立人と自然の博物館	45(21)	11	早春のバスツアー 三田へ
21	4月21日	芦屋—木口記念館 一般参加(映画)6人	19(4)	11	歓談の後、選択メニューで。あしや温泉の足湯/映画鑑賞「内部被ばくを生き抜く」
22	5月12日	神戸港クルーズ	56(27)	10	2周年記念 コンチェルトで夕暮れのクルーズ
23	6月23日	神戸市立小磯記念美術館	22(4)	8	六甲ライナーに乗って、美術館へ
24	7月28日	神戸市立六甲山牧場	35(15)	9	六甲山へのバスツアー
中止	9月8日	神戸市立王子動物園			当日中止
25	10月6日	東大寺大仏殿・奈良公園	31(17)	17	東大寺奈良大仏殿見学バスツアー
26	11月10日(予)	明石市立天文科学館			
27	12月15日	クリスマスパーティ 芦屋木口記念館			
参加者の合計			976人		参加スタッフの合計 329人
(大人・585 子ども・391)					

6. 「みちのくだんわ室」参加者像（少々古いデータですが） 2012.05 現在

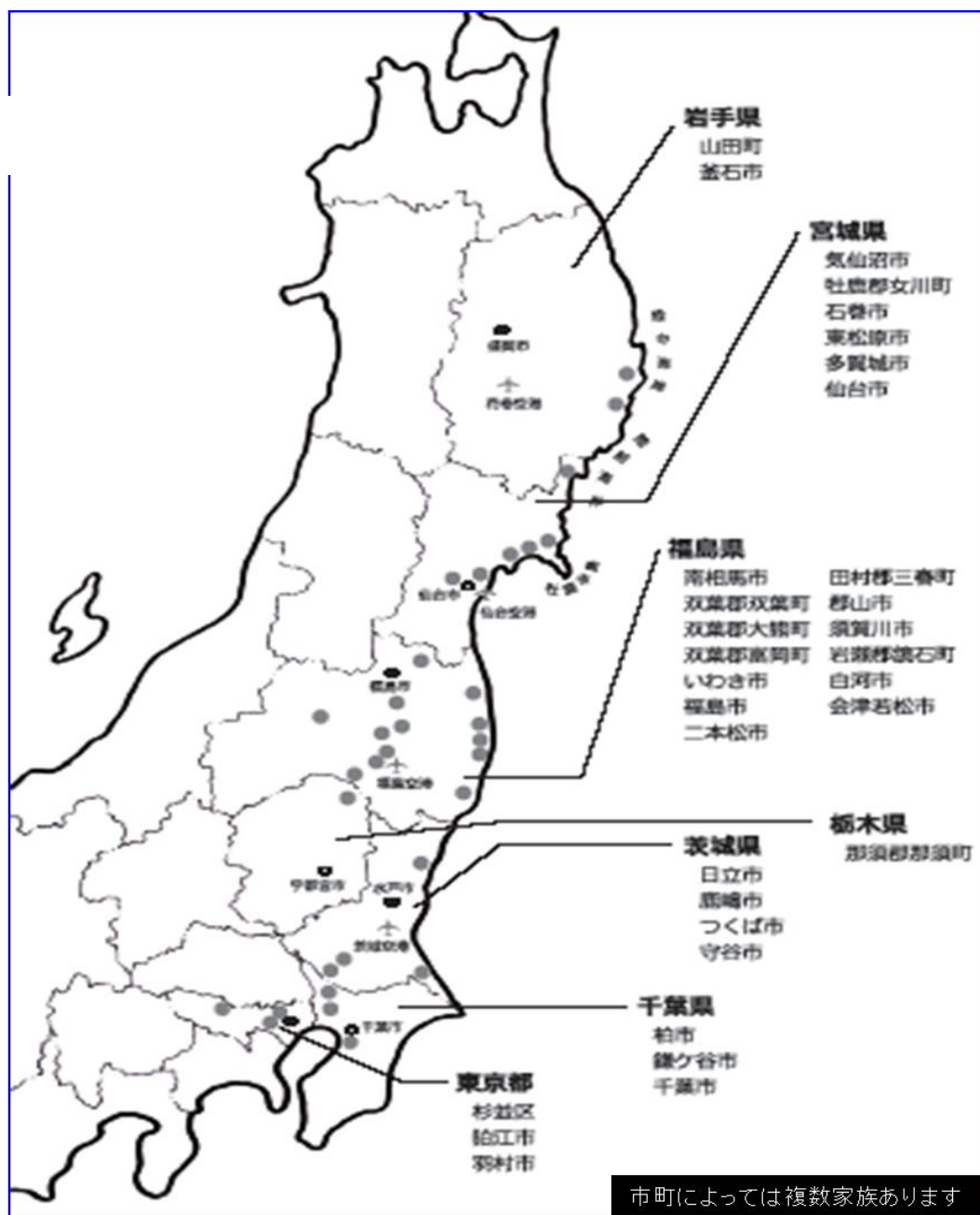
○年齢



○参加者構成



○出身地の分布



7. だんわ室のようすー 1周年記念 100 人大家族の協同の居間ー 2012.6.24



8. 新聞掲載記事

2013年3月14日神戸新聞

29 社 会 2013年(平成25年)3月

支え人 びと

兵庫⇄東日本

津波の映像を見て、心が波立った。すぐにも現場に行きたい。

「いつもそうなるねん。とにかく目で見て確かめて、自分ができることを決めたの」と

だが、自制した。2004年、胃がんの手術で体力が落ちた。数日後、着の身着的のままの人々が兵庫に来ていると新聞で知る。「神戸でできる」と「が」が見つかった。

仲間と呼びかけ、3月末避難者を支援する「暮らしサポート隊」を始めた。

だが、個人情報の壁に阻まれる。自治体に尋ねても避難先は教えてくれない。

新聞記事を頼りに公営住宅を訪ね、チラシを配った。1回目の集いは6月。神戸市北区のしあわせの村で歓迎ピニックを企画した。

宮城や福島が笑顔で話らい、子どもはボールテニアの学生と原っぱを走り回った。「東北弁で安心して情報交換できた」「非日常から日常に戻った気分。反応は予想以上だった。自信がなかっただけに胸が熱くなった。「癒やし」の場を作ること、私たちも癒やされる。だから続ける

「神戸でできること」続ける

ど「自主活動が生まれた。既に20家族が古里や周辺の町に戻った。互助から自立へ、これが私たちの「理念」やねん」

根底にあるのは阪神・淡路大震災後、都市プランナーとして行政に提案したプロジェクト「ハイキングの発

想だ。月1回の集いは「好きなときに集まれる「協同の居間」のようなもの」と話す。

一方で、今も心配事は多い。「やじ」参加したいと思えるようになったと初めて顔を見せる人。首都圏からは新たな自主避難者が増えている。避難をめぐる意見の相違で離婚してしまったりもいる。

「必要とされているから、あと1年は続ける。その先は避難者の皆さんと私たちの状況次第」

身の丈に合った支援が続く。(木村信行) おわり

新聞記事を頼りに公営住宅を訪ね、チラシを配った。1回目の集いは6月。神戸市北区のしあわせの村で歓迎ピニックを企画した。

宮城や福島が笑顔で話らい、子どもはボールテニアの学生と原っぱを走り回った。「東北弁で安心して情報交換できた」「非日常から日常に戻った気分。反応は予想以上だった。自信がなかっただけに胸が熱くなった。「癒やし」の場を作ること、私たちも癒やされる。だから続ける

「神戸でできること」続ける

ど「自主活動が生まれた。既に20家族が古里や周辺の町に戻った。互助から自立へ、これが私たちの「理念」やねん」

根底にあるのは阪神・淡路大震災後、都市プランナーとして行政に提案したプロジェクト「ハイキングの発

想だ。月1回の集いは「好きなときに集まれる「協同の居間」のようなもの」と話す。

一方で、今も心配事は多い。「やじ」参加したいと思えるようになったと初めて顔を見せる人。首都圏からは新たな自主避難者が増えている。避難をめぐる意見の相違で離婚してしまったりもいる。

「必要とされているから、あと1年は続ける。その先は避難者の皆さんと私たちの状況次第」

身の丈に合った支援が続く。(木村信行) おわり

市サポ一 都一 阪一 淡路一 大 震 災 後 都 市 プ ラ ン ナ ー として行政に提案したプロジェクト「ハイキングの発

想だ。月1回の集いは「好きなときに集まれる「協同の居間」のようなもの」と話す。

一方で、今も心配事は多い。「やじ」参加したいと思えるようになったと初めて顔を見せる人。首都圏からは新たな自主避難者が増えている。避難をめぐる意見の相違で離婚してしまったりもいる。

「必要とされているから、あと1年は続ける。その先は避難者の皆さんと私たちの状況次第」

身の丈に合った支援が続く。(木村信行) おわり